

# Daichikyo News

# 大地協ニュース

大地協ニュース復刊 第3号

発行元：NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会  
企画委員会《広報宣伝部》  
発行日：2019年6月 第3号  
担当：望之門保育園 佐伯 剛  
TEL 6651-7741  
Fax 6652-8841  
大地協の最新☆情報は右記→  
QRコードをご覧ください。



## 「歴史を聴く、歴史を語る」



## 大地協NPO法人10周年記念式典報告

大阪市地域福祉施設協議会がNPO法人になって10周年を迎えたことを記念し記念式典と記念祝賀会が平成31年3月2日(土)にホテル・アウイーナ大阪で行われました。

今川学園の三木達子先生からのセツルメントの歴史と現在までの歩みを振り返りました。

長年お世話になっている団体、個人の方々に感謝状の贈呈が行われました。そして、記念講演は日本地域福祉施設協議会会長の阿部志郎会長に「福祉の心」と題して、格調高いお話をいただきました。

当日までに大地協倉光会長・小谷事務局長をはじめ、各施設、個人会員を含めて実行委員会を行ない、当日に向けて話し合いが行われました。記念式典、記念祝賀会を会員総意として持つため

夜遅くまでの会議が続けられ、当日のタイムスケジュールから役割まで細やかなみんなの役割が決めていかれました。

大阪市からも諫山福祉局長、佐藤子ども青少年局長にもご参加いただきました。

当日は役員の施設長、職員が集合し和気あいあいと、差し入れもいただきながら準備が進められました。記念講演は参加者皆さんが集中して、お話を一言も聞き逃すことが無いように聴いていました。

祝賀会では久しぶりの方も含めて会員の交流が行われ、今後の活動に期待を寄せることができました。大先輩から若い会員まで垣根のない大地協のあり方が垣間見ることができました。

# 『全国地域福祉施設研修会』に ぜひ参加して自分の五感で体験してみませんか

第23回 全国地域福祉施設研修会 ～地域福祉とボランティア～

『全国地域福祉施設研修会』ってどんな研修？という方も、行ってみようかな？と迷われた方もいらっしゃるかと思います。何度か参加させて頂いた私からは、「是非、行ってみて、自分の五感で体験してみてください！」とお勧めします。私自身いろいろな研修に行かせて頂く機会がありますが、この『全国地域福祉施設研修会』は他の研修と違ったものとなっています。

1 点目は、開催地がいろいろアイデアを持ち寄り、現場の声が活かされている研修である事です。タイムリーであることはもちろん他の研修と一味も二味も違い、その地域ならではの実践報告や研修方法等も工夫が凝らされています。参加するとアツという間に時間が過ぎると共に「目からうるこ」という事もあります。

2 点目は、とにかく、ここに集う人々の想いが「熱い」。その想いに触れると私も熱い気持ちになります。少し、行き詰った時にも「みんな、そうそう。あるある。そんな気持ちでやっているよね。」「もう少し頑張ってみよう。」と勇気を頂ける場所です。

3 点目は、情報交換ができる場所です。同じ悩みを共有して、同じ目線で相談し合える事は何よりも強みであり、参考になります。また、同じようなものでも全国は広い。自治体によって基準や制度の内容も違うこともあり、それがまた、新たに考えるきっかけになったり、目線が違って他の方法を得るチャンスとなります。

4 点目は、この研修が終わり、また各地域に戻り、実践していくこととなりますが翌年だったり、何年後かにこの研修で再会することがあります。「お久しぶりです。元気にやってる？あれからどうなった？」と懐かしさと共に繋がっていると感じる事ができます。

そして、最後に、ある方の講演を聴いた時の衝撃は今でも忘れられません。それは、阿部志郎先生です。講演の最後に「なぜ、地域に福祉の芽が育たない。」この言葉の後にしばらくの静寂の時がありました。

その会場で聴いていた誰もが、この投げかけられた言葉の持つ意味を考え、地域の状況を思い浮かべる人、自分や地域の課題と向き合う時間となっていたのではないのでしょうか。

そして、次の瞬間、われんばかりの拍手に包まれる…そんな講演をいまだかつて聴いたことはありませんでした。まさしく魂をゆすぶられるという表現があてはまるものでした。そして、最後のこの言葉は、今でも私の心の中に刺さっています。

『全国地域福祉施設研修会』には、このような出会いや感動があります。では、研修でお会いしましょう。



## 大地協 個人○法人 会員大募集！

NPO 法人大阪市地域福祉施設協議会  
会員を募集しています。

当法人の活動にご賛同いただける方、  
入会をご希望の方は

本紙表紙の《[大地協 QR コード](#)》より、  
詳細をご確認いただきお申込みください。



墨田区、そして興望館の成り立ちについて詳細な講義をしていただき、改めてセツルメントがニーズを発見し、調査し、先駆的な働きをしていたことが伺える内容でした。貧困に苦しむ人々が、水害の多い湿地に住まい、さらにそこに農村からの労働者がわずかな希望を抱いて流入してくるという、大阪の貧困地域の歴史とも共通する部分が多くありました。

フィールドワークに参加して毎回必ず思うことは、「帰ったら、次は自分のフィールドを歩いてみなければ！」ということです。

今回は趣向を変えて、自分の職場ではなく、自分の住んでいるまちを歩いてみました。普段見慣れたまちでも、何かに注目すればまた違った景色が見えます。公園には誰がいるのだろうか、何をして遊んでいるのだろうか、空き家だと思っていた住宅の玄関から、高齢者の方が独りで出てきた、子育てサロンやイベントに参加してみたら、同じ親子に何度も遭遇して、やっぱり気になる…。

ひとりの住民として、こんな時どこに相談できるのか、調べてみるきっかけになりました。

もうひとつの視点は、施設の成り立ちに興味を持つということです。人に歴史ありと言いますが、施設に歴史ありとも言えると思います。その歴史を紐解くことは、築かれてきた理念や方針の理解につながり、そして未来に向かって大切にしていかなければならない事を見つめ直す機会になると思います。

フィールドワークの最後に、現地を案内してくれた方とお話していて印象的だった言葉は、「企画はしたけれど、結局は自分の勉強になった。初めて知ったことがたくさんあって驚いた。」ということでした。春に新しく迎えられた職員の方々も、そろそろ仕事に慣れてきた時期だと思います。施設内研修などで、「施設の近所のまち歩き」を企画して、新しい職員の方を誘ってみませんか？

育徳園保育所・辻野 晃弘



## 小児科病棟保育士の役割

子どもといえば「元気があたりまえ」という感覚で、保育園に勤めているときは、一緒にあそび、笑い合いながら、肌と肌とのスキンシップをたくさん取り、信頼関係や愛着関係を築いていくことができるよう心掛けていました。

一方小児科病棟では、私が思っていた「あたりまえ」という医療行為などで常に身体に触れられている子どもたちの中には、触られることが苦手な子どももいました。「あ！笑った！」と思っても、それは顔の痙攣の場合もあります。

医者でも看護師でも無く、保育士だからこそできる自分の役割とは何だろう。

子どもたちが安心して楽しく過ごすことができるよう、一緒にあそび、たくさん声掛けをしながら笑顔で関わりました。すると自然に心と心が繋がっているような感覚を持つことができ、

ものは無く、「一生懸命病氣と闘う子どもたち」と過ごす日々でした。

慢性期患児は、自分の意志を言葉で伝えることが難しい子どもたちが多く、どのようにコミュニケーションを取り、子どもたちの気持ちに寄り添い、受け止めることができるのか悩む日々でした。

子どもたちが好むと思っていた肌と肌とのスキンシップは、

少しずつ信頼関係も築かれ、肌と肌とのスキンシップも安心した表情で受け入れてくれるようになりました。

小児科病棟では、子どもたちから「命の大切さ」「子どもたちが持つ力強さ」を改めて教えていただいたことと、どんな場面でもあそびは大切だということを学ぶことができ、今後の保育士人生において凄く貴重な経験をすることができました。

愛染橋病院 小児科病棟・山口 奈津未



## 《復刊》地域福祉の諸問題作成への思い

「地域福祉の諸問題」というタイトルは復刊一号の巻頭で永岡前会長(現特任理事)が述べられているように、歴史のある大看板です。あえてその眠っていたタイトルを復活させたのは、2015年から組織としての在り方や活動の方向性を含め改革をしようとして取り組んでいるからです。

この復刊は活動の原点に立ち戻りもう一度発信力を高めていくためでもあり、今起きていることを未来に伝えるためでもあります。

そのため、国会図書館をはじめ大阪の公的図書館、福祉関連の大学図書館などにも送付し閲覧できるようにしています。もちろん大地協のホームページにも掲載しています。まだ読まれていない方はぜひお読みください。

貧困化、格差化、孤立化、福祉に携わる人材不足が問題とされているなか、その問題解決のためにツギアテのように整備されつ



つある法や制度があります。これらの問題は単体ではなく人や生活とのつながりをもつものです。連続して刻々と変化し続けるものであるため、これまで私たちがたどってきた道筋を振り返り、そこから今のあり方をみて未来を予想していくというやり方

も必要だと思えます。

地域社会の中で、生活の問題はさらに多様化しています。そんな時代にこそ、隣保事業、セツルメントの理念に基づいた新たな実践が必要となってきていると言えるのではないのでしょうか？

「セツルメント」って何かと興味を持たれた方は、永岡前会長がわかりやすくまとめくださっている資料：「セツルメントとは何かー原点、大

地協の歩み、未来へ」をご一読願います。

「地域福祉の諸問題」の復刊が大地協の活動の活性化につながればと思います。

NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会  
地域福祉の諸問題担当 理事 大川 明宏

## information おしらせ

- ❖ 6月30日(日) セツルの家 小中高校生ワークキャンプ
- ❖ 7月4日(木) セツルの家 開設準備
- ❖ 9月10日(火) セツルの家 夏のお片付け
- ❖ 9月22日(日) 全国研修 児童部会《大阪》
- ❖ 1月26日(日) 大地協バザー《会場：長居保育園》



さらなる大地協の活動や子どもたちの活躍は本誌表紙 QR コードよりご覧ください